

障害者職業カウンセラー職の専門試験について（参考）

1 出題形式及び問題数

各専門分野ともA問題及びB問題から構成されています。A問題は、多肢選択形式、穴埋め形式及び語句説明形式で18問の出題、B問題は、論述形式で2問の出題です。

2 試験時間

専門試験の時間は、各専門分野全て1時間30分です。

3 問題例

[心理学]

A問題

障害に関する次の記述のうち、正誤の組み合わせで正しいものを一つ選びなさい。

- A 知的障害者は、18歳以下の発達期に生じた、知能検査の結果が2標準偏差以上下回っている状態にある障害として定義される。
- B 環境条件の改善や支援の存在によって、適応スキル尺度の向上が見られた場合、知的障害の診断が変化する場合もある。
- C 知的障害についての研究では、健常者との質的差異を強調する注意説を唱えた
- D. ジーマン (Zeaman, D.) らの差異論の立場と、E. ジグラー (Zigler, E.) らの発達論の立場があったが、現在では差異論が有力である。
- D 注意欠陥・多動性障害は、脳の機能不全を背景とした不注意、衝動性、多動性などの症状から特徴づけられる発達障害である。
- E 広汎性発達障害とは、社会性やコミュニケーションの問題、こだわりなどを示す自閉症と、さらにそれに類似するアスペルガー症候群、レット症候群などを含み、自閉症スペクトラムとも呼ばれる。

	A	B	C	D	E
①	×	○	○	○	×
②	○	○	×	○	○
③	○	×	○	×	×
④	×	○	×	○	○
⑤	×	×	○	×	○

B問題

障害者支援における家族支援の役割について、障害受容などの観点も含めて述べなさい（300字程度）。

（キーワード：○○○、□□□、△△△）

[教育学]

A問題

次の文章の空欄A、Bに該当する語句の組み合わせとして、正しいものを一つ選びなさい。

ハーバード大学道徳教育研究センターの所長でもあったコールバーグは、(A)水準(B)段階の道徳性発達段階論を提示した。

- | | A | B |
|---|---|---|
| ① | 2 | 5 |
| ② | 3 | 6 |
| ③ | 4 | 7 |
| ④ | 5 | 8 |
| ⑤ | 6 | 9 |

B問題

2006年度の国連総会で採択された障害者権利条約の第24条(教育条項)について述べなさい(300字程度)。

(キーワード: ○○○、□□□、△△△)

[社会学]

A問題

次の記述のうち、適切でないものを一つ選びなさい。

- ① T.アドルノ(Adorno, T.)らは、ファシズム、自民族中心主義などの反民主主義的なイデオロギーを受容しやすいパーソナリティを権威主義的パーソナリティと呼んだ。
- ② E.フロム(Fromm, E.)は『自由からの逃走』において、「一つの集団や階層に共通な基本的経験と生活様式の結果として形成されたもの」を社会的性格と定義した。
- ③ D.リースマン(Riesman, D.)は、当時のアメリカの新中間層においては、社会的性格は他人の行動に照準を合わせて行動する「他人指向型」から、自己の内面的な価値に照準を合わせて行動する「内部指向型」へと移行すると述べた。
- ④ E.エリクソン(Erickson, E.)は、青年期を大人としての責任や役割を一次免除される「モラトリアム(猶予期間)」とした。
- ⑤ G.ミード(Mead, G.)は、人間の自我を「I(主我)」と「Me(客我)」から構成されるものと述べた。

B問題

1970年代から1980年代にかけての日本人の階層意識について、下記の用語をもちいながら、あなたの知るところを論じなさい(300字程度)。

(キーワード: ○○○、□□□、△△△)

[社会福祉学]

A問題

() の中に最もよくあてはまる語句を解答用紙の欄に記入しなさい。

専門職が地域に出向いて個別訪問を行ったり、集会の場に赴いて福祉ニーズを発見していく方法を、() という。

B問題

パールマンの「4つのP」について、具体的に説明しなさい(300字程度)。

(キーワード：○○○、□□□、△△△)